

令和6年新年市民祝賀会 市長あいさつ

令和6年新春の幕開けとともに、石川県能登地方におきまして最大震度7を記録する「令和6年能登半島地震」が発生いたしました。

昨日現在、石川県内で73名の尊い命がこの大震災で奪われています。心から、哀悼の誠を捧げます。また、多くの負傷者や、倒壊家屋、焼失家屋が多数確認され、寒さ厳しい中、余震に怯えながらも、途方に暮れる皆さんの心情は、計り知れないものが有ると想像します。被災された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。

つきましては、我々西条市が出来る最大限の支援を、本日から能登地方に寄せて参りたいと考えておりますので、市民の皆さま、各業界の皆さまにおかれましても、様々な形でご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

改めまして、新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。ご参会の皆さまにおかれましては、新たな希望を胸に、穏やかな新春をお迎えになられたことと存じます。

皆さまには、市政各般に亘り、今日まで温かいご支援・ご協力を賜っておりますことに、先ずもって感謝申し上げます。本当に、今日までありがとうございました。

さて、月日が経つのは早いもので、市長として皆様と共に歩み始めて、8回目の新年を迎えることとなりました。市民生活や社会経済活動に多大な影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症も、昨年5月から「5類感染症」に移行し、本日の新年市民祝賀会も、令和2年以来となる通常開催とすることができました。市民の皆さまにおかれましても、西条まつりをはじめとした地方祭や様々なイベント、行事が

再開され、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつある日常を実感されていることと思います。昨年10月、愛媛県において「第35回全国健康福祉祭えひめ大会（ねんりんピック愛媛のえひめ2023）」が開催され、本市会場ではサッカーと太極拳の交流大会が行われました。競技や応援だけでなく、おもてなしエリアやミニ観光ツアーなど、幅広い年代の地域の皆さまにもご協力いただき、本市の魅力を市内外の方々に感じていただくことができる、素晴らしい大会となったことを、大変嬉しく思います。

一方で、少子高齢化社会における地域コミュニティや地域公共交通の在り方、医師不足が主原因の地域医療や救急医療の確立、老朽化が進む公共施設の再編整備、複雑多様化する環境衛生の問題、激甚化・頻発する自然災害への対応等、市民の命や暮らしに直結する課題が山積しています。これらの解決に向けて取組を進めていくためには、協働のまちづくりを推進することが重要であります。新型コロナウイルス感染症の影響によって人と人との繋がりが希薄化し、地域コミュニティの存続が危ぶまれる中、将来の地域のあり方をしっかりと見据えつつ今一度気を引き締め直し、市民の皆様と未来へ向けたビジョンの共有を図りながら、地域課題の解決に取り組むことができる体制の構築に努めてまいります。

また、本市は、先に述べた社会環境にあつて、「いっしょにやろや、ちょっとずつ」を合言葉に、SDGsとDXの理念を融合させた取組を継続しております。今後も、LOVESAIJOポイントを用いた地域消費喚起をはじめ、環境・経済・社会の3側面において、先進的な取組を引き続き展開し、好循環を生む「持続可能都市西条2050」の実現に向け各種施策に取り組んでまいります。先が見えないからと立ち止まるのではなく、より多くの方々から「住んでみたい」「ずっとこの

西条に住み続けたい」そう思っただけのまちを目指し、本日お越しただいて
いる村上誠一郎代議士をはじめ、国会議員の先生方、県議会議員の先生方、市議会
議員の先生方はもとより、市民の皆さまと共に、共有、共感、共創により、他には
ない新しい価値を本市に生み出すことができるよう、引き続きチャレンジしていく
ことをお誓い申し上げたいと思います。

本市は、本年11月、合併20周年という記念すべき節目の年を迎えます。これ
を祝し、様々な記念事業を計画中でございます。市民の皆さまにもご参画いただく
ことで、近年失われてきた人と人との繋がりや地域との繋がりを再構築し、西条市
への愛着と誇りがさらに醸成されることを切に願っています。

結びに、市民の皆さまにとって令和6年が健康で幸多き1年となりますよう心か
らお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

令和6年1月4日

西条市長 玉井 敏久